



コロナ禍も一段落し、ようやく国際シンポジウムも開催されるようになりました。トルコ航空機は羽田空港を21時55分に出発し、中国を通過し、アラル海、カスピ海上空を越えて黒海に到達します。さすがに紛争中のクリミア半島付近は避けて南岸に沿って航行し、早朝5時10分にイスタンブール国際空港に到着しました。

海事技術史に関する国際シンポジウムはアジア側の町、ツズラにあるピリレウス大学で開催されました。海岸沿いにある大学なので、構内では猫もカモメも自由に遊んでいました。

シンポジウム最終日はイスタンブール市内の海事博物館とドルマバフチェ宮殿の見学でした。海事博物館ではスルタンの豪華な船とともに1890年(明治23年)9月16日に紀伊半島南端で遭難したエルトゥールルに関する展示があります。事故後の日本の献身的な救援、生き残った乗員をトルコに送り届けた軍艦の金剛と比叡のことなども見ることができます。ドルマバフチェ宮殿はボスポラス海峡に面してつくられていて、1938年11月10日、トルコ建国の父アタテュルクはこの宮殿の執務室で亡くなりました。執務室の時計は9時5分で止まっています。

シンポジウムのあと、ヨーロッパ側の旧市街周辺をまわりました。金角湾は細長い入り江で、オスマントルコの船が入らないように、入口のガラタ橋のある金角湾入口を鎖で封鎖しましたが陸を越えて船を湾内に運び侵入しました。それほど防衛にとって重要な拠点だったのでしょうか。ボスポラス海峡は黒海とマルマラ海の間に位置し、ウクライナ、ブルガリア、ロシアにとって重要な航路です。海峡の西は南に湾曲しています。海峡を挟んでイスタンブールは3つの橋と1本の地下鉄でヨーロッパとアジアを結んでいますが、たくさんのフェリーでも繋がっています。もちろん周遊観光船もあちこちの港からでていますが、市民の足としてのフェリーはとても魅力的です。イスタンブール市内はイスタンブールカードというロンドンのオイスターカードや日本のスイカ(Suica)のようなものがあり、このカードがあればトラム、地下鉄、バス、フェリーと自由に乗れます。ただしこのカードでどの交通機関も乗ることができますが、切符は売っていないので現金でカードを買ってからでないと、乗ることができません。

イスタンブールの水辺を満喫したら、トプカプ宮殿、アヤソフィア寺院、迷路のようなグランドバザールにも足を延ばしましょう。バザールは多くの人で賑わっているだけでなく、猫や犬が自由に歩き回っています。

イスタンブールを楽しんだときには、イランイラク戦争で1985年3月19日にイラン在住の日本人215人がイラクによる警告期限直前の3時間前の1番機に198人、1時間前の2番機に17人が搭乗してテヘラン空港を離陸したトルコ航空機のこと、トルコ人乗客を降ろしてまで救出してくれたトルコへの感謝の気持ちを思い出すことにしよう。



チャムルジャの丘からみた第一ボスポラス大橋 (こちらはアジア側、対岸はヨーロッパ側)



ガラタ橋 (橋の奥は金角湾)、1453年東ローマ帝国はここを鎖で封鎖した



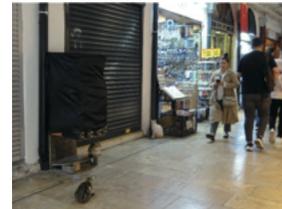
海から見たアヤソフィア寺院、トプカプ宮殿



海事博物館にて



ドルマバフチェ宮殿はボスポラス海峡に船着場があります



グランドバザールの猫たち

# みずべ Mizube Vol.42



## 第20回お江戸深川さくらまつりを終えて

### \*きっかけは都市再生モデル調査

4月7日、「第20回お江戸深川さくらまつり」が終了しました。思い起こせば、「お江戸深川さくらまつり」は、20年前にさかのぼります。内閣府の都市再生モデル調査がきっかけでした。「防災を考慮した水と緑のネットワークづくり」というテーマで、我々NPOと東京海洋大学が共同調査研究を行ったことが始まりです。一時避難場所である東京海洋大学。その講義室で、仲町商店街の方々や、都や区の防災セクション(江東治水事務所や江東区の防災課)の方と、行政の取り組みや計画について勉強し、地域として参加した方々と意見交換したことがなつかしく思い出されます。

例えば地震が発生した時、門前仲町から東京海洋大学まで陸路を避難すると想定した時、沿道の建物から火の手が上がるとは思いません。途中にある歩道橋が落ちる可能性も有ります。そこで船を使った避難を考えたのです。江東区には防災船着場が区内の随所に設けられているのですが、それまで

使ったことが有りませんから、どこに有るかも認知されていない可能性が有ります。いざという時に船着場が使えるように、調査では船が接岸する水深が足りているかも調べました。

### \*今年も船着場の鍵の管理を受託

その後実行委員会として広報、企画に携わって20年。今年も黒船橋たもとの櫓下に水辺カフェを出店するだけでなく、深川観光協会から、船着場の鍵の管理も依頼されました。地域に頼りにされる位置づけに、最初の頃から考えると隔世の感があります。夜は桜がライトアップされる事で、夜の乗船も人気メニューとなってきました。今後さくらまつり期間中だけでなく、夜の船運が定例化される事が想定されます。

先日は東京都河川部が開催した「隅田川越中島地区水辺活用協議会」が開催されました。行政では水辺空間をもっと開かれたものにしたいと考えているようです。我々も水辺のネットワークを活用しつつ、水辺の活動が広がっていればと考えています。

理事長 須永倭子

# 2023年度活動報告

新型コロナウイルス感染拡大状況で本会の活動も制限される中で、水彩サロンとCIG活動はほぼ平年並みに実施された。

## 1 指定管理事業

2023年(令和5年)4月1日から、江東旧中川水彩パークの指定管理事業が始まりました。水辺の会はこれまでの経験を活かして環境や防災などをテーマとした年4回のイベントの実施、公園緑地の整備のためのガーデんクラブの運営手伝い、賑わい施設の運営などを他の事業者と共同で実施しています。イベントの一つとして9月にはハゼ釣り教室、ハゼ釣り大会を実施しました。



指定管理事業の防災イベント  
(Eボートによる避難訓練)

## 2 CIG 事業

江東区から委託を受けて実施しているCIG(City in the Green)事業では、例年どうりキャンペーン活動での告知、講習会、交流会などを実施し、その活動をニュースレターとして広報しました。



区民まつりでのCIGキャンペーン  
(押し芽教室とフレンドシップグリーンの宣伝)

## 3 水彩サロン 2023年春学期秋学期 森下文化センター

### 春学期

第1回 5月21日(日) 14時~16時

「奥の細道の真実」前編、蜂谷一人(元NHK俳句番組プロデューサー)

第2回 6月18日(日) 14時~16時

「奥の細道の真実」前編、蜂谷一人(元NHK俳句番組プロデューサー)

第3回 7月23日(日) 14時~16時

「隅田川の花火 よもやま話」高野祐次(墨田区副区長)



水彩サロン 2023年春学期

### 秋学期

第1回 9月24日(日) 14時~16時

「こうとうの川・橋・船」本会会員 高浦秀明

第2回 10月15日(日) 14時~16時

「万葉集 東歌の世界」前編、国学院大学講師 伊藤高雄

第3回 11月19日(日) 14時~16時

「万葉集 東歌の世界」後編、国学院大学講師 伊藤高雄



水彩サロン 2023年秋学期

## 4 その他の事業

2023年3月11日(土) ボートフェス in 旧中川

2023年3月18日(土)~4月2日(日) 第19回お江戸深川さくらまつり

2023年6月10日(土) 夜の水彩カフェテラス

2023年7月17日(月・祝) 明治丸シンポジウム



ボートフェス in 旧中川 (2023年3月)

## 《その5 八幡橋》高浦秀明(橋梁設計士)

深川の富岡八幡宮の奥に小さな赤い橋があります。この橋は中央区から昭和初めに引っ越してきた鉄の橋です。話はこの鉄の橋が移設されてくる前の江戸時代の八幡橋から始めます。



深川に元からあった八幡橋の創架はかなり早く、寛永4年(1627)富岡八幡宮が創建されてすぐと思われるので、明暦の大火1657年以降の他の深川の橋より古いこととなります。江戸時代の八幡橋の位置は今と異なり、福島橋の並びにありました。今の永代通りは当時から富岡八幡の参道であり、八幡橋に並んで一の鳥居がありました。

元々の八幡橋は運河の埋め立てに伴い消失しました。明治末までは八幡橋はあったようです。富岡八幡の東側には通し矢で有名な三十三間堂がありました。現在、数矢町と呼ばれる地域です。富岡八幡と三十三間堂の間には油堀川の支川が入り込んでいましたが、橋はありませんでした。

現在の八幡橋は元弾正橋と言う中央区にあった橋が移設されてきたものです。弾正橋は(架設当時は元はついていませんでした。大正時代に新しく弾正橋ができて、明治の弾正橋は元弾正橋に改名されました。)京橋区(今の中央区)楓川に明治11年(1878)架けられた、国産(赤羽工作所)、長さ15.7mの橋です。八幡橋はボーストリングアーチという変わった形をしています。隅田川に最初の鉄の橋が架設されたのは明治20年(1887)の吾妻橋なので、鉄の橋の過渡期の形ともいえます。トラスは鋳鉄、引っ張り材は鍛鉄です。現在の鋼鉄は使っていません。技術的移り変わりを想像できますでしょうか。初めての国産の鉄の橋として、国の重要文化財に指定されています。弾正橋の幅員は約9mでしたが、現在では2mに縮小されています。関東大震災後、昭和5年に元弾正橋は現在の富岡八幡宮の場所に移されました。

八幡橋の下は油堀支川が流れていましたが、川は昭和51年(1976)に埋め立てられ橋は陸の上のオブジェとなってしまいました。富岡八幡のすぐ北側今の高速道路が走っているのが油堀川のあった場所です。路面の床版は木製でしたが、その後鋼床版に変更されています。



現在の八幡橋:富岡八幡宮に正面から入りやや右裏に八幡橋は架けられているというより置いてある感じです。橋の下に水路があった時と雰囲気が大変変わっています。

・現地情報など

最寄り駅:地下鉄東西線・大江戸線門仲町徒歩5分。八幡宮入って右裏の遊歩道(ここは境内ではありません)

一つづく